

刑 事 訴 訟 法

(問 題)

2022 年度

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名、科目名を記入してください。受験番号は正確に間違いに記入してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題（80点）

- （１） 覚醒剤を使用した疑いのある被疑者Xに対し、K巡査部長が尿の任意提出を求めたが、Xはこれを拒否した。Kは、Xの覚醒剤使用の有無を確認するため、Xから強制的に尿を採取することはできるか。その場合に必要な令状について論じなさい。
- （２） 深夜、自動車が電柱に衝突する事故が発生したとの通報を受けて、L巡査部長が現場に急行したところ、事故車両を運転していたYが、酒臭をただよわせ、ろれつの回らない口調であった。Lは、Yを最寄りの警察署に任意同行した上、呼気検査に応じるよう求めたが、Yはこれに応じようとしなかった。Lは、Yの酒気帯びの有無及び程度を確認するため、Yから強制的に血液を採取することはできるか。その場合に必要な令状について論じなさい。

〔以下余白〕